

令和 3 年 8 月 24 日現在

機関番号：37101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K02296

研究課題名（和文）市民性における人権意識の涵養に資するサービス・ラーニングモデル構築に関する研究

研究課題名（英文）A Study of construction of effective Service-Learning model to cultivate awareness of human rights on citizenship.

研究代表者

山田 明（Yamada, Akira）

九州共立大学・スポーツ学部・教授

研究者番号：70780766

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：大学生が3年間の人権教育プロジェクトを通して実践したサービス・ラーニング（社会貢献学習）モデルと涵養した市民性としての学習効果（人権意識の涵養）を明らかにしたものである。期待すべきは、この人権モデルを皮切りに多様な市民性に関する資質項目ごとの可視化されたモデル集が構築されることである。米国では1990年代初頭には、101のモデル集が公開されていた。日本でのサービス・ラーニング普及の鍵は、モデル集の存在が大きく影響すると思われる。後続の研究を切に希望するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本におけるサービス・ラーニング（社会貢献学習）の普及を目指し、参加者が選択（プログラム内容及び可視化された学習効果）可能なプロジェクトモデルを構築した。市民性の資質項目である人権意識の涵養に特化した3年間に及ぶプロジェクト実践の成果からモデルを提案し、後続の研究が期待される他の市民性の資質項目に関するモデル集の先駆的役割を果たした。

研究成果の概要（英文）：Through human rights enlightenment project by university students for three years, I clarified the construction of visual Service-Learning model and its learning effect on citizenship. I hope that variety of selectable Service-Learning models that will be effective in fostering citizenship will be built in the future. In the United States, a collection of 101 Service-Learning models was published in the early 1990s. The key to the spread of Service-Learning practices in Japan is thought to be the existence of effective models on citizenship. I am looking forward to further research of visual and selectable Service-Learning model on citizenship.

研究分野：教育学

キーワード：市民性 人権意識の涵養 サービス・ラーニング

1. 研究開始当初の背景

市民性とは、主体的に社会参加できる資質能力であり、サービス・ラーニングとは、地域社会でボランティア活動を実践する米国生まれの社会貢献学習である。近年の先行研究には、サービス・ラーニングを活用した地域発展モデルに関する研究、サービス・ラーニングにおける教科教育及び評価等に関する研究があるが、一部の大学や教育機関で採用されているものの一般化されているとは言い難い。その原因の一つには、プロジェクト内容と獲得が期待される具体的な資質能力の涵養について、明確で選択できる可視化されたサービス・ラーニングモデルが提供されていないことにある。

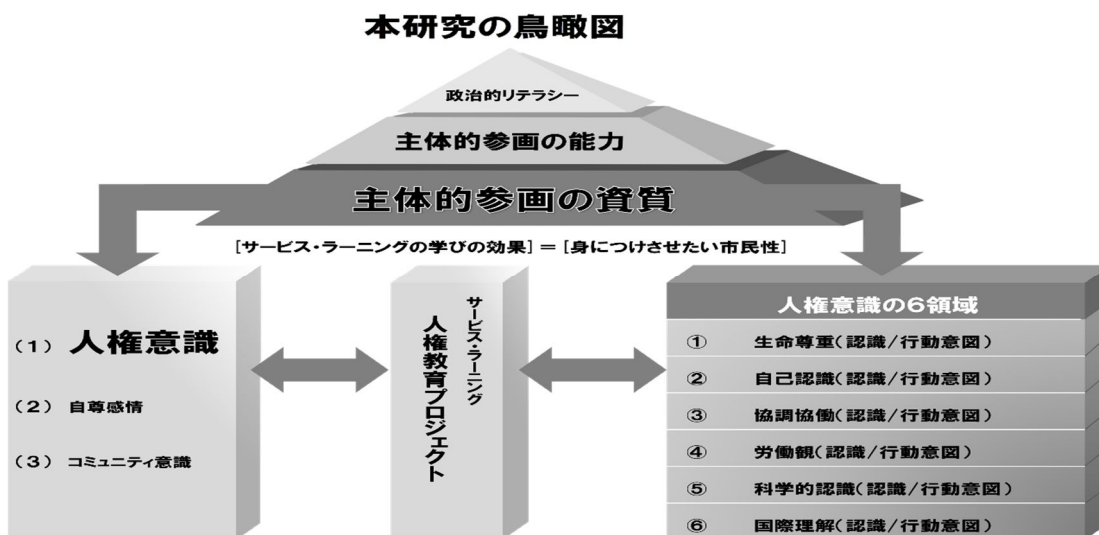
2. 研究の目的

本研究の目的は、人権意識の涵養に特化したサービス・ラーニングモデルを構築することである。人権意識をテーマにした理由は、生きづらい現代社会での人間関係の困難さや多様化する差別事象（例えば、障がい者差別、ヘイトスピーチ、新型コロナウイルス拡散によるコロナ差別）等の社会的課題の解決に必要な基本的資質能力を人権意識と考えた。

3. 研究の方法

大学と自治体の地域連携事業として福岡県岡垣町の中学校2校（2年生）と小学校5校（5年生）の計7校で3か年継続の人権プロジェクトを実施した。活動モデルの内容は、大学生による人権意識調査、分析報告書の作成、学習指導案及び関係資料の作成、学校での授業実践、活動報告書の作成、研究会でのプレゼンテーションである。大学生の学習効果について、人権プロジェクト（人権に特化したサービス・ラーニング）と他プロジェクト（人権以外をテーマにしたサービス・ラーニング）における比較検証アンケート（SPSSを使用した多変量解析、対応のあるt検定）、人権プロジェクト参加大学生のみ対象の人権意識アンケート（人権6領域/認識と行動意図）、ルーブリック評価、サービス・ラーニング日誌における自由記述で分析検証した。

4. 研究成果



(1)人権意識の涵養に特化したサービス・ラーニングモデルの構築

九州共立大学との包括的地域連携協定先である自治体から、青少年に関する人権意識の涵養について要請があった。そこでサービス・ラーニングの構成要件(地域社会のニーズ、事前準備、活動、振り返り、祝福)を満たした活動として、自治体管轄下の小・中学校を対象にプロジェクトを実施した。本活動には、3年間継続参加をした大学生と毎年1年間のみ参加した大学生(計105名)、学習効果の検証のための人権テーマ以外のサービス・ラーニング比較対象群(152名)の合計257名が参加した。

[人権意識の涵養に特化したサービス・ラーニングモデル (2018年～2020年)]

| 実施 | サービス・ラーニングの活動内容 |
|-------|-----------------------------------|
| 2018年 | 人権意識調査(アンケート調査用紙作成を含む)実施 分析書報告書作成 |
| 2019年 | 学習指導案作成 関係資料作成 人権啓発学習(授業実践)実施 |
| 2020年 | 活動報告書作成 活動報告(プレゼンテーション) |

(2) プロジェクト参加学生の学習効果

人権意識の涵養に特化したサービス・ラーニングモデルに関する学習効果を明らかにするため、サービス・ラーニングに関する学習効果(比較対象群) 人権に特化した3年間プロジェクトにおける活動モデルごとの学習効果を検証した。検証方法として、事前事後アンケート(t検定、対応のあるサンプルでの両側検定で分析) サービス・ラーニング活動日誌を活用したルーブリック評価、インタビュー、参与観察等を実施した。

サービス・ラーニングに関する学習効果

人権に特化したサービス・ラーニング参加大学生と比較対象群とした人権以外のサービス・ラーニング参加大学生の比較においては、双方に自尊感情・地域社会の意識はもとより主体的社会参画の資質能力として自主性・責任感・協調性・リーダーシップ・課題発見力・批判的思考力・課題探求力など広範囲な学習成果が検証され、サービス・ラーニングとしての市民性涵養の効果が確認できた。

人権意識の涵養に特化したサービス・ラーニングに関する学習効果

人権に特化したサービス・ラーニングのプロジェクトについては、人権指標6領域(生命尊重・自己理解・協調協働・労働観・科学的認識・国際理解)を視点に作成したアンケート調査を実施した(人権を認識と行動意図からみた事前事後アンケート)。以下のような活動モデルごとの学習効果が確認された。

[人権に特化したサービス・ラーニングモデルと検証された顕著な学習効果]

| サービス・ラーニングモデル | 検証された顕著な学習効果 |
|------------------|----------------------|
| 人権意識調査・分析書報告書 | 生命尊重・協調協働・科学的認識・国際理解 |
| 学習指導案・人権啓発学習(授業) | 生命尊重・自己理解・労働観 |
| + + 報告書作成・活動報告 | 人権6領域のすべて |

(3) 研究成果報告

学会発表

日本教育学会(研究発表、2020年8月)

発表テーマ:「大学生の人権意識を高めるケーススタディ～地域連携教育を活用して～」

要旨:

人権教育は、自己の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度、人権に関する知的理解に基づく知識的側面、人権感覚(価値的・態度的側面、技能的側面)に関する資質能力及び人権意識を育てることである。近年、規範意識の欠如、小・中・高校における不登校・いじめ、社会のひずみによる教育の貧困格差などの問題がクローズアップされている中、時代を担う

青少年にとって人権教育は必要不可欠なものとなっている。自尊感情、自らの学びを構築しようとする学習意欲、クリティカルシンキング、コミュニケーション能力という教育課題は、市民性（シチズンシップ）教育に通底する喫緊の課題である。本研究は大学生の人権意識を高めるといふねらいのもと、福岡県A町と九州共立大学との包括的地域連携事業を通して、大学教員と大学生（スポーツ学部、社会教育関連科目受講生）が協働して3年間行ったケーススタディである。福岡県A町の小・中学生を対象に人権意識調査（小学校5年生、中学校2年生）を実施、調査結果をもとにデータ分析し、クラスや学年の人権意識の傾向を客観的に把握して分析報告書を作成、分析報告書に基づき人権教育学習指導案を作成、この指導案に基づき人権授業を実施した。学習効果については、人権意識という市民性の資質能力に関して、生命尊重・自己認識・労働観・協働協調・科学的認識・国際理解の6領域の涵養に顕著な向上が認められた。

日本生涯教育学会（研究発表、2020年10月）

発表テーマ：「市民性における人権意識の涵養に資するサービス・ラーニングモデルの構築」

要旨：

日本におけるサービス・ラーニング（社会貢献学習）の普及を目指し、参加者が選択（プログラム内容及び可視化された学習効果）可能なプロジェクトモデルを構築した。市民性の資質項目である人権意識の涵養に特化した3年間に及ぶプロジェクト実践の成果からモデルを提案し、後続の研究が期待される他の市民性の資質項目に関するモデルの先駆的役割を果たすことを目指した。本研究において、九州共立大学との包括的地域連携協定先である自治体から、青少年に関する人権意識の涵養について要請があった。そこでサービス・ラーニングの構成要件（地域社会のニーズ、事前準備、活動、振り返り、祝福）を満たした活動として、自治体管轄下の小・中学校を対象にプロジェクトを実施した。3年間継続参加をした学生と毎年1年間のみ参加した大学生（計105名）学習効果の検証のための人権テーマ以外のサービス・ラーニング比較対象群（152名）の合計257名が参加した。構築されたモデルに関する学習効果については、市民性（人権意識の涵養：生命尊重・自己認識・労働観・協働協調・科学的認識・国際理解の6領域）の涵養に大きな効果が見られた。

著作

著書名：

『「市民性教育」研究～人権意識（認識・行動意図）の涵養に効果的なサービス・ラーニングモデル～』

出版社：鳥影社

出版年：2020年12月

目次は以下の通り。

- 1 はじめに
- 2 本研究の枠組み
- 3 本研究に関する用語解説
- 4 研究成果の概要 サービス・ラーニングモデル構築と学生の学習効果
- 5 サービス・ラーニングモデル構築
- 6 学生の学習効果（市民性における人権意識の涵養）
- 7 おわりに サービス・ラーニングモデル集の構築にむけて
資料編

【要旨】

本書では、大学生が3年間という長期の人権教育プロジェクトを通して実践したサービス・ラ

ーニングモデルと涵養した市民性としての学習効果(人権意識の涵養)を明らかにしたものである。期待すべきは、この人権モデルをスタートに多様な市民性に関する資質項目ごとの可視化されたサービス・ラーニングモデルが検討されモデル集が構築されることである。米国では 1990 年代初頭には、101 のモデル集が公開されていた。日本での普及の鍵は、モデル集の存在が大きく影響して行くと思われる。後続の研究を切に希望するものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 山田明 |
| 2. 発表標題 市民性における人権意識の涵養に資するサービス・ラーニングモデルの構築 |
| 3. 学会等名 日本生涯教育学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 山田明、峰司郎 |
| 2. 発表標題 大学生の人権意識を高めるケーススタディ |
| 3. 学会等名 日本教育学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 著者名 山田明 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 鳥影社 | 5. 総ページ数 136 |
| 3. 書名 「市民性教育」研究 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|